
未来の中学生

井之上 怜将

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来の中学生

【Nコード】

N0852K

【作者名】

井之上 怜将

【あらすじ】

22世紀の話。主人公の流は、運動大好き中学生。しかし、周りの人はパソコンとかばっかだった。流は退屈な学校生活を送っていたら、ちょうど校長が・・・

ブローグ

ブローグ

22世紀、俺の周りの子供は科学が発達してみんな家で、ゲームやパソコン、携帯……

こんなニートみたいな奴ばかりだ。夏だろうが冬だろうが、遊ぶことになると、必ず家でピコピコもしくはカタカタと音を立てて遊ぶ。しかし、この俺、五十嵐^{いがらし}流^{りゅう}はこの時代には、珍しいのか帰ったらまず外で家の壁に向けてボールを蹴ったり投げたり……。まあ、こうしてひたすら運動ばかりしてたおかげで小学校の時から運動神経がよくダントツで運動会とかでは1位だった。

明日は中学校の入学式。この中学には、運動部が無い。あるといったら、パソコン研究部とか吹奏楽部、コーラス部、漫画研究部という俺には全く無縁の文化部だ。だから、俺はサッカークラブに入ろうと思ってる。

入学式当日、メチャクチャダブダブで暑苦しい学ランを初めて着た。それで、近所の友達と新しい中学校へ行った。我が新登校所は名を「柏田学園中学校」という（学園とつくが初代校長がなんとなにかつこいいからと柏田は初恋の人の苗字だからこの名前にしたらしい）。昇降口で受付を済ませ、クラスを確認して（俺は5組ある中3組だった）教室へ入った。もうほとんどの人がいて、先生もいた。黒板にかいてある席順をみて、着席した。先生はなんかニブイらしく、俺が教室に入ったのはきずかないで椅子にすわった音でやつときずいて、

「えーっと、五十嵐君ね」

「あい」

と、俺は返事してちょうど隣の席の笠井としゃべった。笠井（フルネームは笠井 翔太）は小3からクラスが同じで、よく俺のボール遊びに付き合ってくれた。

先生は一人ずつ自己紹介させた後（先生の名前は小森で社会、入学式を行う体育館へ行つて普通に入学式が始まった。校長の話を聞いたら、この校長は変わつて俺は好きだった。入学式は終わつて、俺ら1年は下校となった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0852k/>

未来の中学生

2010年10月15日22時12分発行